

緑の相談コーナーだより

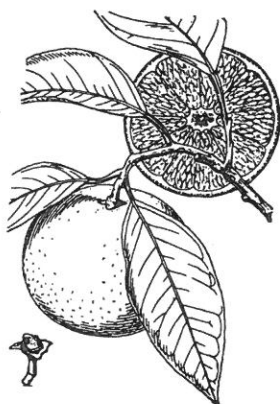
NO. 341 2013. 11 . 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “ミカン” (蜜柑)

～団らんのひとときに欠かせない冬の味覚～



ウンシュウミカン

Citrus unshiu (Makino) Marcov.

ミカン科カンキツ属の常緑小高木で、いうまでもなく日本の柑橘類の代表です。温州蜜柑、紀州蜜柑などの品種があります。紀州蜜柑は、食用にされるほど美味しい味をもっているのですが、今では温州蜜柑に圧倒されてほとんどかえりみられなくなりました。しかし、本種は長い間人々に愛されたミカンで、多分むかしのタチバナの系統を引き継いだものといわれます。現在栽培の主流となっている温州ミカンは、日本で生まれた品種で、400年から500年前に中国から鹿児島県北西部の長島に渡来した種子から、突然枝変わりにより生じたものです。種がないので江戸時代までは「たねなし」として忌み嫌われ、明治中期までは紀州蜜柑の方が人気がありました。今日では日本の中部や南部の暖地で広く栽培されており、通常枝にトゲがなく種子もありますが、肉質は密であまい液を多量に含み、木は寒さや病気に強く、果実は早熟で貯蔵に適することから、日本のミカンの代表的存在となっています。

植物名の由来ですが、果実が蜜のように甘い柑子^{こうじ}の意で、蜜柑の字は室町時代の『尺素往来』^{せきそおうらい}という書に初めて現れたといわれます。ここでの柑子はミカン類の古名です。ところで、日本のミカン類の中で最も有名な温州蜜柑の意味ですが、昔からミカンの産地として有名な、中国浙江省の南部に位置する海岸の地名の温州に因んだものらしいが、この温州の地とは何の関係もなく、ただ単に名前をとっただけのようです。



キシウミカン

Citrus kinokuni Hort. ex Tanaka

温州蜜柑の極早生は9～10月に、早生種は10～11月、中生種は11月上・中旬、普通種は1～2月に食べ頃となります。最近ではヨーロッパでもミカンがつくられるようになり、スペインなどではマンダリンと呼ばれ、秋から冬の市場に並びます。

ミカンの効用ですが、ビタミンCが豊富で、古くから風邪の予防や風邪薬として用いられてきました。

をとめ今たべし蜜柑の香をまとひ
暮るゝまで海彦応へ密柑山

日野草城
徳永山冬子



バラ園

公園だより



錦秋の季節が過ぎて、今月は急激に気温が下がり、北風にせかされながら白鳥や雁の群が南へ下っていく季節となりました。バラ園の裏山の木々も、間もなく木枯らしに衣を奪われ、枯れ木立になることでしょう。そして下旬には雪が舞うことでしょうが、2年続いた岩見沢の豪雪、今冬くらいはご容赦願いたいものです。バラ園は3日に今年のフィナーレを迎えますが、冬に備えての作業が忙しく行われます。冬囲い前の仮剪定と葉むしり、病虫害の予防措置、雪折れ被害から守るための結束と被覆作業などが行われます。この時期のバラ園も覗いて頂いて、ご家庭のバラなどの冬越し作業の参考にされ、来年の花の季節の訪れを待ちたいものです。

今月のバラ園からの一口メモは、バラを植える時の場所などについての注意についてです。バラは比較的水を好みますが、排水性の悪い土壌は好みません。バラは根から水を吸収するとともに、大量の空気を必要としているのです。生育中、大雨などによって、根の広がっている部分まで水が溜ったりすると、根は窒息して、枝葉は萎れ、やがて枯死したりするのです。このように排水性の悪い条件のところでは、排水溝を作ったり、客土をしたり、植え床を高くしたりして、生育中に害がでないようにしてやりましょう。

日当たりの条件については、バラの場合、5時間以上の陽光があれば育つといわれますが、さらに午後の西日が当たらず、午前中に十分日が当たるところがあれば最良の条件です。これは、夏の午後の陽光は、バラを弱らせ、生育を阻害するからです。

色彩館では、先月から咲いていたキンモクセイの花が散り始め、今は、サザンカの蕾が赤く色づき、ツバキの蕾もふくらんで、間もなく開花することでしょう。アベリアやトキワマンサクも咲き始めました。

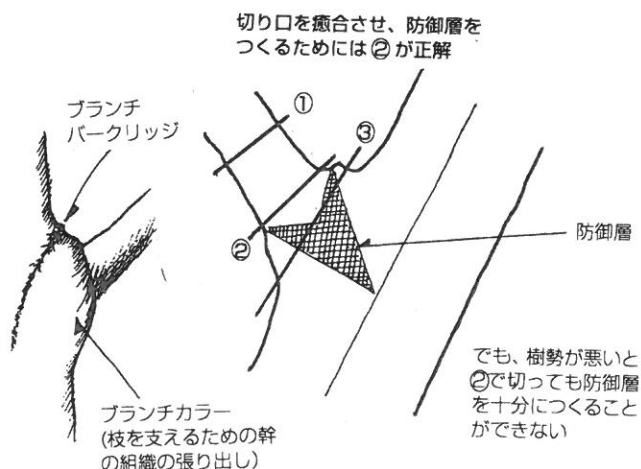
南国温室では、レモンや四季なりミカンが色づき、パキラやパパイアの果実も結実が見られます。真っ赤なハイビスカスの花や極楽鳥花、ランタナなどの花も咲いてきましたので、ここでは南国情緒をたっぷりとお楽しみ下さい。

相 談 日 記

問 長い間庭木を放置しておいたところ、枝葉が伸び放題になってしまい、そろそろ剪定しなければと悩んでいます。太い枝も何本か切らなければなりませんが、枝をむやみに切ると樹木を弱らせたり、切り口から腐れが入って幹の中まで腐朽が進んでしまうと聞きました。そこで、切り口を早く癒合させる剪定のポイントと基本的な切り方などについて知りたいのですが？

答 まず、少し太めの枝を切る場合、**切る時期**についても注意が必要です。枝先剪定や刈り込みは初夏や花後に随時行いますが、太めの枝は、本道では落葉後の休眠期に行います。これは、太い枝の剪定は人でいえば大手術をするようなものですから、樹木が眠っている間の方がダメージが少ないからです。ただ、シラカンバやモミジ類、ミズキなど早春に切ると水が出やすいものはなるべく晩秋に行うようにします。その外の樹木は、普通、早春の堅雪の時期を利用すると、作業の利便性や安全面からも有利のようです。次に、切り口を早く癒合させるための、**正しい枝の剪定位置**についてです。枝と幹は、分岐した後たがい組織が交叉しながら太っていきますが、常に幹の方の組織が枝を支えるようにして張り出しています。枝が枯れるときは、この枝と幹の境まで枯れるのです。そこで、枝を切る場合は、この枝と幹の境の②で切ることが大切です。もし①で切ると、幹の組織が傷口をふさごうとしても枝の残りが邪魔になってなかなかふさぐことができません。そして枝の残りを腐らせる菌が繁殖して勢いを増すと、枝が幹に食い込んでいる部分にできる防御層も突破しようとしします。樹勢が強ければ防ぐことができますが、弱っていると負けて幹の中まで材質腐朽菌が侵入します。なお、③で切る方法をフラッシュカットといいます。ここで切ると幹の組織まで切り取ることになり、傷口も大きくなってなかなかふさぐことができず、

病原菌も侵入しやすくなって、胴枯れ病や溝腐れ病になることがあります。また、枝を切った後にできる防御層もできにくくなります。②で切るのが最もよい方法ですが、樹勢が悪いと病原菌の侵入をうけることがあります。樹勢が衰退している木であれば1本の枝を切るのも慎重にする必要があります。



晩秋の霜降に小花を球状に咲かせる～ミセバヤ 花言葉 開放感



ミセバヤは、「見せばや（見せたい）」で、その花の美しさに由来するとされます。ベンケイソウ科セダム属の多年草で瀬戸内海沿岸が原産地とされる古典園芸植物で、庭植、鉢植、盆栽などとして栽培され、特に石垣などに植えて観賞される場合が多いようです。北海道では、ふつう近似種のヒダカミセバヤ（葉が対生し、幅が広い）が栽培されています。また、北海道原産で、母種がサハリン、アムール地方に分布するエゾミセバヤは、やや小形ですが好んで栽培されております。なお、ミセバヤの花は、晩秋に淡紅色の小さな五弁花が球状に集まって咲き、茎が垂れ下がることから、別名を「玉の緒」ともいいます。

購入するときには、節間がつまって密生した、しまった感じのする株を選びましょう。なお、手入れのポイントですが、日当たりと風通しの良い場所を選ぶことが大切です。また、乾燥には比較的強いのですが、過湿を嫌いますので、水のやりすぎには注意しましょう。

11～12月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ 冬の室内植物管理のポイント

日時 11月 3日（日） 13:00～15:00

講師 緑化相談員（樹木医） 泉 征三郎 定員 40人 参加料 無料



♣ クリスマスのアレンジメント

日時 11月 24日（日） 13:00～15:00

講師 中央フラワー協会 伊藤とみ子 さん 定員 40人 材料代 1500円

♣ 冬の写真教室

日時 12月 1日（日） 10:00～12:00

講師 ナチュラルリー写真家 若林 信男 さん 定員 20人 参加料 無料

♣ お正月のアレンジメント

日時 12月 8日（日） 13:00～15:00

講師 中央フラワー協会 伊藤とみ子 さん 定員 40人 材料代 2000円

編集・発行 北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで